

1

「ネーミンググライツ」の目的とは？

《50歳代男性》



声 スポーツセンターが「ダイナックスアリーナ」、市民文化センターが「北ガス文化ホール」と公共施設に企業の名前が入った呼称がつけられましたが、どのような目的があるのですか。

答 「ネーミンググライツ」とは、公共施設を広告媒体として、企業名や商品名の入った愛称を付ける権利を事業者などに付与し、事業者から対価を得る手法です。

ネーミンググライツの導入により、施設の維持管理費用などの財源が確保でき、良好な施設環境を安定的に市民の皆さんに提

供することができません。

市は、一定の宣伝効果やメディアに取り上げられる頻度が高いと考えられる施設としてスポーツセンターや市民文化センターを対象に、ネーミンググライツの事業者を募集しました。

実際に、4月1日からスポーツセンターを「ダイナックスアリーナ」に、10月1日から市民文化センターを「北ガス文化ホール」としてネーミンググライツを導入しています。

ネーミンググライツのスポンサー企業によるイベントなどの実施により、地域経済の活性化や施設の魅力向上などが期待できます。

【行政管理課行政経営係】
☎(24)05112

声のらん

「声のらん」は、主に「市長への手紙・ポスト」や「広報聴モニター」の声と、その答えをご紹介します。このほかに、皆さんからの一般的な質問などもご紹介いたしますので、疑問に思っていることなどを、お手紙などでお寄せください。ただし、他の市民の方にも参考になる内容を採用させていただくため、全てを掲載することはできません。また、質問の内容を確認する必要上、お手紙には必ず連絡先と名前をご記入ください。【〒066-8686 / 千歳市東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報聴課 宛】

2

「小児科日曜救急」の受診は、病状が深刻な子どもだけが来るべき！

《30歳代女性》

声 子どもが高熱を出して2日間熱が下がらないので、「小児科日曜救急」に行きました。

たくさんの子どもが待っていて、診察までには時間がかかりました。でも、中にはゲームをしたり、病院の中を走り回っている子どももいました。「小児科日曜救急」は、深刻な病状の子どもだけが来るべきだと思います。

答 「小児科日曜救急」は、千歳市内、恵庭市内で開業または勤務している医師の協力を得て、本年4月から千歳市民病院で開設しました。

1日平均約26人と、多くの子どもが受診していることから、診察までの待ち時間が長くなっているのが現状です。
「小児科日曜救急」は、突発

的な症状で緊急の処置が必要な子どもが受診する場所です。

緊急性のない軽症の方が、コンビニエンスストアに出掛けるような感覚で救急医療を受診する「コンビニ受診」という言葉を耳にした方もいると思います。

このような方が増えると、「何日も熱が下がらない」、「意識がもうろうとしている」などの症状を抱え、緊急的に診療を必要とする子どもへの対応にも支障を来す恐れがあります。

「小児科日曜救急」は、皆さんのご理解とご協力があって、本来の救急医療体制を維持することが出来ます。
ご協力をお願いいたします。

【市民病院事務局総務課調整係】
☎(24)3000内線234